

今までの総会の様子



来年こそ四谷で会いましょう

今年度も「関東支部同窓の集い」を中止します

今こそ堅忍不拔の精神で
困難に立ち向かおう！



同窓の皆様におかれましてはお変わりなくお過ごしでしょうか。日頃は村上高校同窓会関東支部の活動にご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。昨年は新型コロナウイルスの影響により、関東支部の「同窓の集い」を中止とし1年後の再会を心待ちにしておりましたが、現在、新型コロナウイルスの緊急事態宣言が解かれたとはいえ、現下の情勢からみてまだまだ終息の見通しが立たない中、本年の6月の「同窓の集い」を中止することにしました。また、当会における当面の運営及び活動について、感染防止と安全を第一に考えて行っています。さらに、本来であれば、今年6月の総会で役員改選を考えておりましたが、総会中止に伴い、現役員体制のまま引き続き行っていくことになりましたので会員の皆様のご了承をお願い致します。1年以上にもわたるこの困難のなか、今こそ、本校の校訓であります「堅忍不拔」の教への精神をもって困難に立ち向かう時ではないでしょうか。会員の皆様におかれましてはくれぐれもお体に十分気をつけてお過ごしください。マスク無しで心安くお会いできる日が一日も早く到来することを心から願っております。

村上高校同窓会関東支部 会長 山本宏平 (17回)

新潟県立村上高等学校同窓会関東支部

お高

題字 宮 絢子

2021. 5. 10
第32号

発行人 山本 宏平
編集 木村 春夫
事務局 櫻井 繁雄
神奈川県川崎市多摩区
宿河原1-22-35-308
☎044(933)1033
ホームページ <http://www.murakou.com/~kanto/index.htm>

お知らせ

新型コロナウイルスの影響により、本年度も同窓の集いは中止となりました。

維持会費について

毎年、会員の皆様にお願ひしております維持会費について、現下の情勢を考慮し、今年度の徴収はとりやめとします。



古希雑感

関東支部副会長 八藤後和行(22回)



昭和、平成、令和と三つの時代を生き抜き、気が付けば今年70歳を迎える年になりました。高度経済成長期の昭和45年に高校を卒業し、平成23年に定年を迎えました。村上高校は歴史ある城下町に1900年に創立され、昨年は創立120年を迎えました。コロナ禍で式典を盛大に執り行う事が出来なかったことはとても残念に思います。

我々の時の学年は9クラスで、一つ上の先輩は11クラスもありました。学年に関係なく行われた、クラス対抗の体育祭や球技大会を懐かしく思い出します。現在は一学年4クラスと聞いております。学区制廃止により学生は新発田、新潟へと流れが止まらない様です。伝統ある村高を魅力ある学校にする為には何か良い方策がないかと心を悩ましています。

今、海外の若者は日本のアニメを見てとても日本に興味をもってきます。魅力ある学校にするには斬新な取り組みが必要です。県下に先駆け海外からの交換留学生を積極的に受け入れ、他校と違う特色を出すことも大切だと思います。

卒業後、半世紀以上がたっても、母校やふるさとの繁栄を願う思いは募るばかりです。
(川崎市在住)

村上高校同窓会関東支部

令和1年度会計報告

本来であれば昨年の総会で報告し、ご承認を得る予定でしたが総会が中止になったためここに報告します。

【1年度収入の部】	
項目	金額
総会会員参加費99名	693,000円
来賓御祝い金 7名	67,000円
特別参加費 2名	16,000円
本部助成金	50,000円
維持会費	756,000円
寄付金 1件	2,000円
広告代 4件	24,000円
雑収入(利息)	6円
前年度よりの繰越金	1,266,112円
合計	2,874,118円

【1年度支出の部】	
項目	金額
総会費	889,308円
印刷費	165,180円
通信費	196,368円
維持会費振込手数料	43,456円
会議費	180,816円
運営費	25,745円
旅費慶弔費	90,000円
次年度への繰越金	1,283,245円
合計	2,874,118円



下り坂だから見えるもの

山内 敦 (22回)



いつだったか、地域の住民が協力して長さ100メートルを超す大蛇を作りギネスで世界一に、とNHKニュースで流れたことがあった。それまでの記録は我が郷里、新潟県関川村の「大したもん蛇まつり」で使う82・8メートルだったそう。 「再逆転は狙わないのか」とのインタビュに、担当者が「ウチの大蛇の長さには意味があるので、競うようなことはしません」と大人の対応を見せていた。

そう、この大蛇は羽越大水害のあった1967(昭和42)年8月28日を忘れないようにするためのものだ。その日、私は村高の1年生。夏休みも終わろうというのに、のほほんとしていたことを覚えている。 実家は荒川の支流・女川のそばにあり、夜半、川があふれ、父母といた1階の茶の間に濁流が押し寄せてきた。懐中電灯で照らしながら家具が流れていくのを押さえていたが、瞬く間に腰の高さになって、障子にはまっているガラスがはじけ飛んできた。手が切れた。父が叫んだ。「死なばもろともだ!」。オラ死ぬのイヤだ、と思った瞬間、2階

の自室に駆け上がった。英語の宿題帳を持って降り、濁流に流してやった。もう2学期も始まるのにまっさら、名前すら書いていなかったのだ。 どうしてそんな行動を取ったか、覚えていない。「何してる!」と親から問い詰められたが、黙っているうちに水がひき、夜が明けた。びっしり入り込んだ流木をかき分け外に出たら、道をはさんで斜め向かいにあった2軒の家は土台からなかった。

川の轟音に混じって声がした。両側が濁流になった中洲の木につかまっている男の人影が見えた。家々から人が出てきて、大変だと口々に叫んでいる。数時間後、両岸からロープを渡して救助された。後で高校の2年先輩と分かった。暗闇の中、上流の集落から流され、途中、柳の立木に当たったという。 夏の日差しが戻り、道路にできた大きな水たまりに鯉が泳いでいた。食えそうだと思っ棒でつついていたら、自転車の一行が現れた。村上から様子を見に来てくれたのだった。1学期に見知った同級生もいて、うれしかった。彼らは私の無事を確認し、次の集落へ向かった。その後ろ姿は忘れない。

俳優の火野正平さんが自転車で視聴者の「心の風景」を訪ねるNHK・BSの番組がある。そのキャッチコピーが「人生下り坂最高!」だ。確かに上り坂だと漕ぐのに必死、周りに気が向かない。下り坂だと景色を眺める余裕がある。今年も古希だ。残り不明だが、今まで気づかなかったこと、スル

ーしてきたことを一つずつ確かめて下って行くのもいいかもしれない。(八千代市在住)

若ききみたちへのエール

川村 稔 (16回)



40数年前のことである。私は其の日、福井県大飯町にある関西電力原子力発電所の建設現場に通じる道路の傍らで、埼玉の工場から運搬されてくる現場建屋に設置する製品を、明け方から待っていた。 日が昇るころ、第一便の大型トレーラーがゆっくりと人目を避けるように進んできた。そこに載っている製品は、東洋一大きい、羽根径1・6メートル、外形3メートル超、重さ1・5トンの屋上換気扇である。原発建設に反対する近隣住民への配慮から、細心の注意を払って搬入する必要があった。

私は1968年4月、社員数310名程の産業用特殊モータとファンの専門メーカー、(株)栗田電機製作所に入社した。配属は宣伝広告を担当する企画課であった。学校では電力専攻だったので、出だしから自負心は弾かれた。その頃は日本中が高度経済成長の最中で、企画課の予算も豊富に組み込まれていた。新聞などの広告投稿の作業で追われていたころ、上司から唐突に二泊三日の大阪万博見学の指示があり、いそいそと喜び勇んで出かけた。 帰社して間もなく、「大阪営業所を開設するから責任者で行け、大阪探題

だ」と鼓舞された。

大阪営業所のミッションは、当時の関西地区販売が中堅電機専門商社1社に依存しており、メーカー主導体制に再構築することであった。しかし、甘くはなかった。商都大阪である。世間を何も知らない、間もなく26歳になる若輩者であった。その後の悪戦苦闘は知る由もなかった。

1970年12月、大阪営業所は5名でスタートした。暗中模索、若さも手伝い夢中で駆け出した。最初に取り組んだ案件は、必然的に先輩が開拓し、実績のある関西電力美浜原子力発電所を頼りに、大飯原発1号、2号の建設物件の営業活動であった。

特別仕様の原子力電気機器製品は厳しい設計基準を満たす必要があった。工場の技術応援を得て、関西電力建築部、N設計事務所へのスペックイン活動を展開、何とか一人で対応できるようになっていった。お付き合いのほうもカラオケ、麻雀、ゴルフといずれも下手が幸いしたのか、お声がかかるようになり、そのことは、私の本来の性分が目覚めるころでもあった。

丸3年が経過していた。大手電機メーカーH社、M社、中堅専門メーカーKの3社を抑え、36台の大口で成約した。現場への搬入情景は冒頭の通りである。その後、関西地区の大半のタービン建屋に設置された。

住めば都で、関西弁にも慣れ、奈良から嫁さんも貰って、三男坊の身軽さか、

この地に骨を埋めようかと考えていた頃、「東京本社に戻れ」との辞令を受けとった。1977年4月、ミッションも道半ばであったが後任に託し、妻と1才に満たない長女を連れ、大阪を後にした。

その後は、栗田電機および子会社の経営を任され、一昨年6月に52年の会社人生を終えた。



最後に、若い人にエールを送りたい。「頑張っている姿は、必ず誰かがみているよ、諦めないで」と。(柏市在住)

若き日の思い出

QCサークル活動に情熱を注ぐ

佐藤建夫(13回)

昭和36年3月10日社会人となって会社勤めをする日が来ました。その日は雪のちらつく朝で、玄関では家族一同がそろって励ましの言葉をかけて送ってくれました。



勤務先の緑川化成工業は千葉県松戸市上矢切の江戸川の土手沿いにありました。プラスチック製造専門の会社で、プレート(素材板)のみ生産していました。仕事はかなり重労働でしたが、先輩方の指導が良く、怪我もなく過ごせました。

仕事に慣れた頃、一人で浅草方面へ遊びに行きました。昭和30年代の浅草の街はたいそう賑わっており、六区街と呼ばれる繁華街にはストリップ劇場

が何軒も在り、初めて入場した時にはビックリし、興奮しました。更に国際通りには有名な国際劇場があり一流歌手の歌謡ショーが行われ、所属のSKD松竹歌劇団ダンサーによるライندگانはそれは見事でした。

その後2度転職し、目標としていた「安定した会社に入り定年まで勤めよう」と選んだ会社が蛇の目シン小金井工場でした。現業部門に在籍していたころQC活動が始動し、私も職場の仲間とサークルを作り、数々の改善提案を行いました。その成果が認められ、私はサークルを代表しQCサークル沖繩大会の四人の参加者のひとりに選ばれました。大会の会場は宜野湾市のコンベンションセンター

劇場棟で、日本各地から参加した会社員の体験談が発表されました。その後、那覇市内でサークル交流会が行われ、他の会社員とQC活動の苦楽を語り合い、有意義なひと時を過ごしました。

帰りの日は首里城やひめゆりの塔など名所めぐりができました。私にとって初めて乗る飛行機、そして本州から離れた外地沖繩に足を踏み入れたことは一生忘れることができない思い出となりました。(狭山市在住)



隅田川ボート記念碑

佐野清廣(3回)

私は昭和26年の村高卒業で、29年に大学に進みました。何とか強い体にし

ようとボート部に入り、4年間で籍を切りました。当時ボートレースは隅田川で行われていました。既に川の汚染が進んでおり、船舶往来もあって練習は現水神大橋の近くの綾瀬の水門を抜けた荒川放水路(現荒川)で行っていました。

その後ボートの活動は、隅田川から昭和15年に完成した戸田ボートコースに移って行われております。平成29年9月、日本でのボートが始まった隅田川東岸墨堤(言問橋・東武鉄橋間)に「隅田川ボート記念碑」が関係者の尽力で建立されました。「漕」と大書された記念碑

には「日本のボートは、ここ隅田川を中心に発展し、その隆盛を迎えた」とあります。記念碑の下部には記念碑建設委員会会長、半藤一利の名前があります。ご存知の方も多



いと思えますが、半藤さんはボート部の先輩であると同時に「歴史探偵」として、「昭和史」「ノモンハンの夏」等多くの著作で親しまれました。(1月12日逝去)

記念碑と並んで「隅田川ボート年表」の案内板が立てられています。年表では明治10年頃から学生達が隅田川でボートを漕ぎ始めたこととあります。その後、明治20年、明治32年まで中断を挟んで6回にわたり行われた一高・高商戦、(現東大―一橋大戦)はボートレース史上特に有名です。当時の記録には「満



都の人気を呼んだ」とあります。応援合戦も激しく、万一の衝突を恐れ、度々中断されたのでした。

明治26年には日本郵船等4社による日本初の企業対抗レガッタが開催され、明治38年には早稲田大学と慶応義塾大学の対校戦(早慶レガッタ)が始まりました。

明治の初期から太平洋戦争の終戦前後まで隅田川は日本のボートの中心地でした。今ではボートはマイナーな競技ですが、最盛時には正に隅田川の華であったことが偲ばれます。

ボート記念碑の脇には桜で有名な隅田公園があります。この方面にお出かけの折にはぜひ記念碑もご覧下さい。(鶴ヶ島市在住)



大阪だより

山本 大輔 (33回)



村上高校を卒業し故郷を離れてから早40年が過ぎました。東京の大学を卒業し就職後は新潟、小田原、名古屋、大阪、岡山そして東京へ戻り、さいたま市に居を構えました。そして今、25年振りに大阪に単身赴任できています。

最初の大阪ではなかなか仕事や生活に馴染めなかった記憶があります。まだ若かったこともあり、大阪の人の遠慮の無い物言いや仕事の厳しさに戸惑った思いがあります。今は、少しは

図々しくなったのか気持ちに多少の余裕があるのかあまり気になりません。しかしながら大阪での生活に不満が少しあります。それは大阪の食文化、味噌についてです。大阪はあまり味噌を使わないのです。天下の台所として栄え、新鮮な食品が集積、そして出汁の文化の発展により保存食である味噌はあまり使われなかったという歴史的背景があると言われています。街の定食屋で食べても味噌汁が美味いという所は少なく、味噌汁ではなく小うどんが付いてくるなんて時も多い。漬物もいまいち、メインのおかずは味もボリュームも文句は無いが北国育ちは美味しい味噌汁と漬物が恋しい。味噌ラーメンもラインナップには有ってもメインではなく味噌ラーメン専門店もない。とはいえやはり食い倒れの街、美味しいものは沢山ある。

ただ昨年から続くコロナ禍、思うようには動けません。夜のキタやミナミはもちろん、焼き肉の聖地鶴橋、同僚との居酒屋やお好み焼にも行けない状況が続いています。定年まであと1年ちょっと、早く普通の生活に戻り大阪グルメを堪能したいものです。そして大好きな史跡探索、神社仏閣巡りも気兼ねなく出来る世の中、家族、友人とわいわい言いながらお酒、食事が楽しめる世の中が、この駄文がみなさまの目に触れる頃には戻っていることを願っています。



(さいたま市在住)

まほろしの写真を探して 宝田明著「送別歌」挿入写真

田所和子 (17回)



10月のある日「ダメ元でのご相談です」というメールが工藤尚廣さん(31回)から届いた。工藤さんは、昨年出版社「株式会社ユニコ舎」を設立。今回宝田明さんのメッセージ集を編集中でその中に「村上本町(もとまち)小学校」の写真是非載せたいのだが、見つからないという。通称「本町(もとまち)学校」は土族の子が通う学校で、同じ敷地内には、少し離れて町民の子供が通う「村上町(まち)小学校」も立っていた。しかし、戦後その「本町(もとまち)学校」は取り壊され、中学校となった。山辺里小学校出身のわたしにはうろ覚えの記憶しか残っていない。

宝田さんのご先祖は村上藩士で、飯野にある寶田(ほうだ)家と伺った。ハルピンからの引き上げ後、彼はその後「本町学校」6年生に転入。その後中学2年の時、家族で上京した。写真依頼に二つ返事で探してはみたものの、戦前の写真を探すのはなかなか困難であった。しかし巡り巡って、従兄の益田正史の手元にあった写真集「いのち連綿・ふるさと村上」(※後註)にその「本町小学校校舎」全容が載っていた。校舎は、土族が鯉の人口ふ化で得た収入で明治12年に建てられ、当時としては珍しく白いバルコニーを備

えたモダンな洋風建築であった。同窓会の先輩方にはここに通われた方も多いと聞く。この時代の貴重な歴史的建築物を解体せずに、どこかに移築できなかったのかと残念に思う。ともかくこの写真は、第4幕に無事挿入され、先輩の面目?を果たすことが出来た。

宝田さんは戦前、幼児期から満鉄勤務の父と家族6人、ハルピンで豊かな生活を過ごしていた。その時通っていた白梅小学校で1年後輩にいたのが、なんと佐藤勝同窓会前会長の兄上、佐藤廣さんであるとは奇しき縁。ところが、ソ連の侵攻によって日本人の生活は一変して過酷なものとなってしまった。宝田さんは一家を支えるために、たばこ売り、靴磨き、石炭をこっそり持ち返って家の燃料にと。ある日、シベリア抑留の兵隊が乗せられて行く列車に近づいた途端、腹を銃で撃たれた。麻酔も無く、焼いた裁ち鋏で鉛弾を取り出すという恐ろしい経験もされた。何十年経った今でも、時折その傷が疼くという。

平和の希求は、残された者の使命と断言して止まない宝田さん。満州等他民族と共存していた大陸で培われた世界観は、その後のご自分の『人格形成に大きな影響を及ぼしている』と語っておられる。是非「送別歌」のご一読を。(藤沢市在住)
*参考写真集『いのち連綿・ふるさと村上』平成4年3月株式会社アベックス(村上市仲間町)発行



幻の本町小学校

村高と私

新制二回生(90歳)の写真回顧録

木村一昭(1回)

①村高同窓会関東支部総会実行委員長開会のあいさつ

②村高の書道の前田先生のと看、新年の書初めで私が「金賞」を受賞した際に先生から頂いた色紙および推薦状

③昭和24年3月3日、学校長より左記の事項につき表彰された

○自治委員長および箒球部キャプテンとしての活動

新制村高の最初の自治委員長で、学校からの指名が無いとなれない時代であった。箒球部の活躍としては中越、下越地区大会での優勝

○学術・品行ともに優秀につき受賞

○学業の成績優秀につき

村上高等学校奨学会より受賞

○皆勤賞という丈夫な身体の育成

○毎日の精進により無事学校を卒業

④新制高校2年生の時に、音楽部のハーモニカバンド部創設。大場先生、長柄先生他部員一同

⑤新制高校2年理科組の東京近在に在住する同窓生9名の諸氏。

木村、加治、舟山、近、舟山、本間、奥村、佐野、大貫の各氏

⑥ルバイヤートの會

昭和初期に、11世紀のペルシャの詩人ルバイヤートの詩集を翻訳したものが岩波書店から出版されてベストセラーとなり、たっさんの愛読者が東京地区にいた。

その翻訳者が当時の関東支部長小川景士の実兄、小川亮作さんであった。そのファンの會が、生誕50周年を記念して、村上の小川支部長の実家で盛大に開催した時の写真である。(平成3年10月26日) 會の顧問に小川景士、会長木村一昭、副会長に小田正二と藤田桂子(杉並区在住)



①総会実行委員長



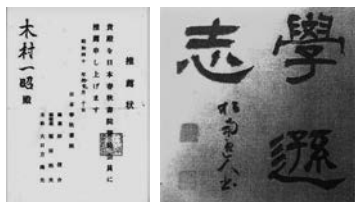
③箒球部主将として活躍



⑤新制高校2年理科組



平成9年度星和會懇親會



②色紙と推薦状



④ハーモニカバンド部を創設



⑥ルバイヤートの會(小川宅)

歴史散策の「案内」

美濃忠三(22回)



昨年度の歴史散策は残念ながらコロナの影響で中止せざるを得ませんでした。第1回から9回までは問題なく開催出来ましたが、第10回については今のところ白紙の状態です。但し、歴史散策は例年秋以降に実施していたのでまだ時間の余裕があり、開催に一縷の望みはあると思っています。

次回の歴史散策は魅力的な良い場所を関係者一同企画しますので皆様の参加をお待ちしております。ここに行きたいと言わうリクエストがあればご連絡下さい。次回に反映させたいと思います。(所沢市在住)

ゴルフ同好会

臥牛会報告

佐藤 勝(14回)



村上高校同窓会関東支部のゴルフ同好会である「臥牛会」の活動として、毎年春秋の2回コンペを開催しています。昨年はコロナ禍のため春のコンペは控えたのですが、秋は多くの方からの要望を受け、24名参加のもとで開催されました。昨年10月6日開催の第66回秋季コン

への結果は次の通りでした。

優勝 木村 香 (19回)

NET 91-66

準優勝 本間 保 (17回)

78-71

三位 稲葉 潔 (27回)

86-71

同窓会活動の中でも、「臥牛会」の歴史は古く30年の歴史を持っています。今後も一層活発な活動を目指し、新しい入会者を心よりお待ちしております。(西東京市在住)

- 臥牛会役員
- 会長 小田洋雄 (15回)
- 幹事 志田 裕 (20回)
- 瀬下江二 (21回)
- 事務局 佐藤 勝 (14回)



近況報告

楽しく元気に働いています

平山 淳(33回)



3年前、30年近く働き、営業担当役員を務めていた会社を、56歳で退任しました。会社勤めはもうやる気はなく、自分の手で起業しようと考え、最初に始めたのは、結婚相談所です。自然に思いつき、最初から妻と一緒にやろうと思ひ、やり始めた仕事です。事業を始めた人の多くが経験するように、

お客様のいないとても不安な時期、焦り、ゼロからイチになったときの喜びなどを経て、今日まで来ました。この相談所は、日本結婚相談所連盟に加盟しています。ここに登録したおおよそ6万人のなかからお相手を探すことになり。今では、多くの会員を抱え、毎月1〜2名の方が成婚される相談所に育ちました。もっともこれは私の力ではなく、明るく社交的な妻の力だと思っています。

また、昨年、フランチャイブにも属さず、私ひとりで始めた学習塾も、おかげさまで多くの生徒さんがいらっしやるようになりました。この塾は、一対一の個別指導であり、国語と社会を担当しています。子どもたちと接する仕事は、自分の気持ちや心を若返らせてくれる仕事であり、これを選んで良かったと思います。塾業界出身でなく、違う社会を経験してきたことや50代後半という年齢は、むしろプラスになっていると思っています。

二つの仕事を通じて思うことは、大切なのは、自分自身が夢中になって取り組むことだということです。そうすることで、自然に周りに人が集まり、結果として社会に役立つことになるのだということがわかりました。会社を辞めたことは、神様が決めた強制終了であり、これらの仕事をするのが運命だったような気がしています。

結婚相談所の屋号は、「パートナーズツリー (PartnersTree)」、「世田谷区 結婚相談所」で検索すればすぐに

見つかります。国語塾の名前は、そのまま「個別指導 国語の教室」、これも「世田谷区 国語塾」ですぐに見つかります。

東京に出てきてからすでに40年以上が経ちました。偶に帰省する際、日本海東北自動車道を北に向かうと、朝日連峰に連なる山々が目に入ってきます。あの緑、季節によっては雪化粧した姿を見ると、ときに胸が締めつけられるような気持ちになります。田んぼ道を夢中で走ったときのこと、また、鬼籍に入った方々も多いお世話になった方々のこと、よい思い出もそうでない思い出も、すべて東北の地、村上での出来事です。

最近、高校時代の同級生と東京で飲み会をすることもあります。数年前までの私にはあり得なかったことです。人生のうち20数年をともにしている妻は、村高の2年後輩です。東京生まれの長男は、村上の方言など一つも話せません。それでも、村上の血に変わりありません。ふるさととは切り捨てたはずですが、私のなかでは今も生きていくのかもしれない。

(世田谷区在住)



母校だより

村上高等学校 校長 山川徹也



同窓会関東支部の皆様におかれましては、お変わりなくお元気でお過ごしのことと存じます。昨年、校長として、伝統校村上高等学校に赴任し、あっという間に1年が過ぎようとしています。

令和2(2020)年度は、記念すべき本校創立120周年にあたりますが、御案内のとおり新型コロナウイルス感染症のため、記念式典等記念行事が中止となりました。しかし生徒には同窓会から記念誌と記念品をいただき、村高の歴史に触れてもらいました。

いつもの3月であれば、卒業式から高校入試、終業式、離任式などの学校行事を粛々と進めているところです。しかし昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現在も学校の教育活動に多くの制限が加えられています。卒業式は、卒業生、保護者及び学校教職員のみにて挙行いたしました。

在校生は送辞を読む生徒会長一人だけ出席しました。卒業生の答辞も素晴らしい内容で、是非在校生に聞かせてあげたいと思います。3年間の高校生生活を終え、村高を巣立っていく卒業生の姿は晴れやかで、また堂々として、3年間で大きく成長したことを感じました。卒業生には、120年の伝統を

誇る村上高校で、「堅忍不拔」の精神で学び、卒業したことに誇りを持ち、それぞれの場所で、新たな目標に向かって努力することを期待しています。様々な困難な状況の中、今春の進路実績では、国公立大学始め、難関私立大学へも複数名合格者が出るなど、生徒の進路実現へ向けた努力が着実に実りました。

また、「村高イヨボヤプラン」プロジェクト(地域探究学習)でも、その成果が表れてきており、同時に進めている県教育委員会による「魅力と活力ある学校づくり」推進事業も3年の期間が終了し、その成果を報告書にまとめる段階に来ております。

本校教育目標を踏まえた望まれる人間像として、①自己肯定感・自己有用感がある人、②将来に希望を持ち、向上心を持ち続けられる人、③変化の激しい社会に、柔軟に対応できる人、を育成するため、これからもカリキュラム・マネジメントに基づいて、全教職員が授業改善を積極的に進めることも、次代を担う村高生の育成に、大きく影響すると感じます。

依然として困難な状況が続く、先の見えない時代ですが、村高のさらなる飛躍のため、前向きに挑戦を続けてまいります。同窓の皆様には、今後も、村高づくりに御協力いただき、ますますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。



■ 村高関東支部役員一覧

令和2年度

役職	氏名	卒業回
顧問	佐藤 勝	14-2
会長	山本 宏平	17-2
副会長	安富 成良	19-6
副会長	美濃 志三	22-4
副会長	八藤 和行	22-7
副会長	高橋 初雄	24-4
副会長	大塚 寿子	29-4
副会長	小林 敦子	30-1
副会長	山本 進平	30-2
副会長	山本 繁雄	23-6
副会長	高橋 光頭	23-7
副会長	木村 春夫	23-5
副会長	木村 安夫	30-6
副会長	松澤 正	15-1
副会長	田所 和子	17-6
副会長	山下 治郎	19-10
副会長	山下 江二	21-7
副会長	遠藤 志	21-9
副会長	中村 修平	21-11
副会長	鈴木 弥生	22-2
副会長	山本 利春	24-7
副会長	佐藤 隆	26-4
副会長	石栗 忠彦	27-4
副会長	水島 大海	28-1
副会長	中村 英之	29-6
副会長	山本 和代	29-5
副会長	南 恵美子	31-1
副会長	工藤 尚廣	31-3
副会長	坂井 昌夫	31-3
副会長	近 亮	31-7
副会長	森山 敦子	32-2
副会長	大滝 秀則	32-5
副会長	山本 大輔	33-2
副会長	木村 一昭	1
副会長	荒木 廣	6-4
副会長	齋藤 實	7-4
副会長	中野 菊栄	8-4
副会長	鈴木 亮	9-5
副会長	本間 勝治	9-5
副会長	小野 安雄	10-1
副会長	長谷川 康夫	10-5
副会長	本間 健志	定11夜
副会長	板垣 成也	13-3
副会長	伊藤 衛	13-5
副会長	菅井 眞人	13-5
副会長	尾崎 茂	15-1
副会長	小田 洋雄	15-7
副会長	本間 保	17-3
副会長	宮 絢子	17-7
副会長	緒方 光彦	18-5
副会長	中村 和憲	18-10
副会長	濱中 壽子	18-10
副会長	菅井 初雄	19-1
副会長	長坂 三重子	19-1
副会長	志田 裕治	20-11
副会長	佐藤 賢吉	22-9
副会長	永井 章	26-7
副会長	相馬 章	30-3
副会長	伊藤 ヨシ	30-4
副会長	前田 格	36-6
副会長	川上 孝	2
副会長	小田 正二	3
副会長	中野 素子	6-1
副会長	乾 良雄	6-4
副会長	小池 悟朗	8-6
副会長	関根 洋	9-2
副会長	横山 昇	12-2
副会長	佐藤 三男	16-6
副会長	川村 稔	16-4
副会長	佐藤 衛	16-4
副会長	高橋 芳行	18-11
副会長	秋山 勇一	19-9
副会長	斎藤 久男	21-8
副会長	小林 ミチ	10-3

11-2	富樫利男
11-2	加治利也
11-2	立花俊道
12-2	細井ミツ子
12-2	本間健志
12-2	細越健一
12-2	木村一昭
12-3	小野利恵治
12-4	川上 孝
12-4	家田昌典
13-2	小田正二
13-2	斎藤悌三
13-2	斎藤奎二
13-3	佐野清廣
13-3	田中照浩
13-4	青木新一
13-4	吉田シズ子
13-4	渡部和子
13-5	伊藤 衛
13-5	佐藤建夫
14-1	富山 久
14-1	松永純子
14-2	佐藤 勝
14-2	細野 勲
14-3	黒岩紘子
14-3	丹田兵次
14-4	村山孝夫
14-7	土肥直子
15-1	伊藤満紀子
15-1	尾崎 茂
15-1	永井文男
15-1	松澤 正
15-2	大川トミ子
15-4	鈴木康夫
15-4	角替キヨ
15-4	明前壽一
15-4	山本桂子
15-5	田村久七
15-6	青山光夫
15-6	鈴木益良雄
15-7	小田毘古
15-7	小田洋雄
15-7	田中敏博
15-7	宮野美保子
16-1	富樫春夫
16-3	鈴木 愈
16-3	竹内幸恵
16-3	二宮照子
16-3	菅井章人
16-4	川村 稔
16-4	川村忠久
16-5	中山國男
16-6	大坪信武
16-6	小池 登
16-6	佐藤三男
17-1	倉崎テル子
17-2	金谷法子
17-2	森田千代子
17-2	山本宏平
17-3	太田直也

令和2年度 維持会費拠出者一覧

17-3	小葉 晃
17-3	古川 宏
17-4	町田 信
17-4	美濃部純子
17-5	山脇 昂
17-5	横山 昇
17-5	渡邊慶子
17-6	山宮イツ
17-6	当摩幸彦
17-6	野口春樹
17-6	高橋 翼
17-6	前田寛郎
17-6	渡辺輝男
17-7	板垣成也
17-7	松村 命
17-7	伊部京子
17-8	吉田シズ子
17-8	渡部和子
17-8	伊藤 衛
18-6	佐藤建夫
18-7	富山 久
18-8	松永純子
18-10	佐藤 勝
18-10	細野 勲
18-10	黒岩紘子
18-11	丹田兵次
18-11	村山孝夫
19-1	土肥直子
19-1	伊藤満紀子
19-1	尾崎 茂
19-1	永井文男
19-2	松澤 正
19-2	大川トミ子
19-3	鈴木康夫
19-8	角替キヨ
19-8	明前壽一
19-9	山本桂子
19-9	田村久七
19-9	青山光夫
19-9	鈴木益良雄
19-9	小田毘古
19-10	小田洋雄
19-10	田中敏博
19-10	宮野美保子
19-10	山本文忠
19-10	山本文忠
19-11	奥村良作
19-11	鳥屋 実
19-11	成岡 茂
20-1	菅原 孝
20-2	大沼 晶
20-5	加藤正己
20-5	木村幸夫
20-5	平山恵美
20-6	佐藤陽三
20-6	高橋国栄
20-7	渡辺泰次
20-8	菅原ヒロ子
20-8	富野竹子
20-8	肥本久子

20-9	中村加和子
20-10	尾上啓子
20-10	齋藤満男
20-10	新沼たず子
20-10	本間 廣
20-11	佐藤方直
20-11	志田 裕
20-11	鈴木陽二
20-11	高崎慶一
20-12	羽深大三
21-1	伊藤マユ子
21-1	久保喜代子
21-1	飛田芳子
21-3	船山由喜男
21-4	飯島 剛
21-4	斎藤善二
21-6	清水正幸
21-6	鈴木正信
21-6	田原彰子
21-7	瀬下江二
21-7	本保悦也
21-8	難波光子
21-8	萩原美津枝
21-8	山際敏和
21-8	山崎久男
21-9	恩田たみ子
21-9	川上幸男
21-10	寺井克為
22-2	鈴木弥生
22-2	丹 光一
22-2	村山 稔
22-3	山崎とし子
22-4	美濃忠三
22-5	神浦英子
22-6	団原い子
22-7	八藤後行
22-7	山本 敦
22-8	小島盛和
22-9	佐藤裕治
22-9	村山直弘
23-1	鈴木和美
23-2	細谷洋子
23-3	佐伯ユミ
23-4	須崎ミチ子
23-5	木村春夫
23-6	木村美喜子
23-6	櫻井繁雄
23-6	富樫博志
23-7	高橋光頭
23-7	小森裕貴子
23-8	加藤 明
24-1	広沢なお子
24-2	七海陽子
24-4	高橋重実
24-4	高橋初雄
24-4	土屋康子
24-4	吉澤まり子
24-5	山本青子
24-6	阿部正人

令和3年3月末現在

24-6	渡邊 聡
24-7	板垣保明
24-7	遠山 満
25-1	富樫三子夫
25-2	中田勢津子
25-5	須貝与志明
25-7	相馬文幸
26-2	石司厚子
26-7	松澤 豊
27-1	板垣恒彦
27-4	石栗忠彦
27-4	松本春二
27-4	山村重雄
27-4	梅原章子
27-5	臼井潔人
27-7	八幡浩道
27-7	稲葉 潔
28-3	北畑枝里子
29-3	井上孝広
29-6	中村英之
30-3	相馬 章
30-3	菅 憲悦
30-4	中山定次
30-5	小田 徹
30-6	清野 篤
30-6	丹田安夫
30-6	中村 好
30-7	齋藤 司
31-1	南恵美子
31-1	横山素子
31-1	鈴木 修
31-1	長谷川忠晃
31-3	坂井昌夫
31-3	工藤尚廣
31-5	高橋寛子
31-7	高山嘉弘
32-6	角田和浩
33-5	金澤清美
35-4	前川則子
36-6	中島 博
36-6	福永利枝子
37-2	石川るみ子
38-2	加藤博徳
39-5	山本一郎
41-3	黄地貴子
41-8	茅野民夫
43-3	榎田睦子

ご協力者287名

維持会費納入のご協力ありがとうございました



ふるさとだより

輝きに満ちた笑顔のまち 村上



村上市 市長 高橋 邦芳 (30回)

令和3年度は昨シーズンの暖冬少雪とは打って変わり、豪雪や暴風によって大変厳しい年明けとなりました。さらには、新型コロナウイルスからの脱却を目指した緊急事態宣言が発令される中、新潟県においても引き続き県独自の警報発令が継続されており、日々の生活に困難を来す状況が続いています。なかなか出口の見えない中ではありますが、くれぐれもお身体にはお気をつけていただきたいと思います。

こうした中であって、村上市ではこれからも「持続するまち」を実現するための取り組みを着実に進めています。ともに助け合う災害時の連携をはじめとした友好都市連携協定を積極的に進めています。



新村上総合病院

現在、新潟県内においては新潟市、妙高市、見附市、南魚沼市との連携、県外においては姉妹都市である福井県鯖江市に加え、宮城県多賀城市、茨城県大洗町、東京都荒川区、そして市産材である越後杉の供給、普及を目指して先日東京都港区と「間伐材をはじめとした国産材の活用促進に関する協定連携」を締結しています。一昨年の「山形県沖を震源とする地震」や「令和元年台風19号」による豪雨災害の際、相互に応援を実施した神奈川県山北町とも近々連携協定が実現することになると思います。都市間連携を強化することによって、いざという時の応援はもちろんですが、平時からそれぞれの自治体の強みを活かして人流をはじめ働き方が大きく変化する現代

において、大いに期待できる仕組みになっています。

コロナ禍ではありますが、昨年暮れに朝日地域高根集落の「高根フロンティアクラブ」の皆さんが「令和2年度農林水産祭」において天皇杯を受賞されました。これまでの集落における地域づくりが高く評価され、現在30のジャンルで用意されている国内最高賞の天皇杯の受賞は、大変名誉なことであり、市内各所で繰り広げられている「まちづくり」に大いに励みとなる快挙でありました。

前後して、「日本観光特産大賞2020」(一般社団法人日本観光文化協会主催)において、『城下町・新潟県村上産のまちな「村上鮭」』が観光特産大賞グランプリに輝きました。先人の取り組みがこうして評価いただくことの凄さに只々驚くばかりです。全国観光特産検定観光特産士が選定する最高賞の受賞は「村上鮭」の地力を改めて感じる一事でした。



越後村上鮭塩引き街道



昨年延期された東京オリンピックパラリンピック

の実施を心待ちにしております。村上市では新潟県の聖火リレーを山形県に引継ぐセレブレーションが実施されます。新型コロナウイルス感染症を克服して無事に実施されることを願うばかりです。

今年夏には、昨年延期となり今年1月にオンラインで実施した「令和2年成人式」の「集い」と合わせて「令和3年成人式」が実施されます。若い世代が時代を繋ぐことを大切にしていきたいと思っています。

また、延期となっております小和田恒先生と宇都宮大学准教授平井李枝先生のコラボ講演会の開催をお伝えすることができることを願っています。

宝田明「送別歌」 定価:1,600円+税



銀幕スター・宝田明さんが満洲時代を回顧して詠んだ漢詩「送別歌」をベースにしたメッセージ集。

宝田さんの祖先が眠る村上での日々も綴られています。

株式会社ユニコ舎(代表:工藤尚廣/31回生)

TEL.03-6670-7340

田所和子さんが本文で紹介されている本です。引き揚げ後の村上での生活も綴られています。

ゴジラ俳優の波乱 万丈の人生物語!



阿刀田高に「同級会に思う」という一文があります。その中で彼は、同級会に参加して感じたこととして、『いろんな人生があったけれど、結局、自分なりの幸福をつかんだやつが「等賞なんだ」と述べています。今回、いただいた原稿の中に、懸命に努力して得た、たくさんの一等賞を見ることができました。自粛生活の中、ご寄稿いただきありがとうございます。

編集後記